

# しごとサポート!

第26号



※障害のある方が安心して働き続けることができるように、仕事に関する相談や支援を行っている文京区の支援機関です。



●写真:代表 やなぎ まさひろ 柳 匡裕 氏

## SocialCafe Sign with Me × 雇用創出



## 誰もが「ありがとう」をもらえる社会を目指して 一般社団法人ありがとうの種

今回、取材にご協力いただいたのは文京区春日にある SocialCafe Sign with Me を立ち上げた一般社団法人 ありがとうの種代表の柳 匡裕氏です。聴覚障害のある当事者として、障害者就労に携わったご経験がある柳氏にカフェ事業立ち上げの経緯やご自身の経験からみえてきた福祉の問題、障害者の雇用についてお話を伺いました。(本記事の中では聴覚障害があり、手話を第一言語とする方を「ろう者」、聞こえる方を「聴者」と表現させていただきます。)

### ●3つの理念に込めた想い、そして Sign with Me 立ち上げの経緯

一般社団法人ありがとうの種では、当事者をキーワードに「当事者の雇用創出」、「当事者の職域開発」、「当事者のロールモデル発信」の3つを法人理念として掲げています。代表である柳氏はその3つの理念を同時に達成できるビジネスモデルを考えていた時、偶然入ったインド料理店でそれは閃いたといいます。店員はインド人だけで日本語が通じない環境でした。コミュニケーションは難しかったのですが、料理はとても美味しく何度も通っているうちに、自分の中にある偏見に気づいたといいます。インド人から接客を受ける中でインド人は長い髭にいつもターバンを巻いて笛で蛇を操ると

いうイメージしかなかった自分を恥じ、コミュニケーションが違って接客はできる、美味しければお客様は来てくれる、直接当事者に接することができる。まさに3つの法人理念を同時に達成できることに気がつき、カフェ事業を立ち上げたそうです。そして、SocialCafe Sign with Meは今年で10周年を迎えます。ろう者と聴者が福祉ではなく、ビジネスでつながり、win-winの関係性を築くという新たな形を社会に示しているという手応えも感じているといいます。

### ●選択肢を自分で作る自由があることが大切

柳氏は幼い頃からいつも何かの支援を受けていることが当たり前前の家庭環境で育ち、まさに「福祉漬け」であったそうです。そうした家庭環境で成長するなかで、何かを決断する際も限られた選択肢しかなかったと柳氏は気がつきました。社会人になり、東南アジアへ一人旅をしたのをきっかけに「選択肢は与えられるものではなく自分で自由に創る、その気持ちこそが大切である。」ということがわかったと言います。大人になってから意識を変えることは難しいですが、変わりたいと思う気持ちで、一つ一つ「スモールステップ」で取り組んで行く必要があると柳氏は話していました。「小さな成功を積み重ねて自信につなげる。失敗することは恥ずかしいことで

はない。諦めたときが初めて失敗になる。」ということだろう  
の子ども達にも伝えることが、将来の障害者雇用へつなが  
っていくと話をされていました。

### ●社会的障壁を共に超えるため

「ろう者は意図的に学習し、行動する事は聴者と何ら変わり  
りはない。一方で、例えば料理をする際、調理の方法だけで  
はなく前後の会話が重要です。しかし、私にはその会話が  
入ってこないため大きな障壁を感じます。」と柳氏は話され  
ます。

聞こえる世界では周囲の会話から様々な知見を自然に身  
につける「暗黙知」が大部分を占めますが、ろう者の場合、  
見て学ぶ「形式知」の情報だけに限られてしまいます。以前  
は厨房の裏にまわり直接話を聞いたり、お酒の場で情報を  
得ていたそうです。現在は新型コロナウイルスの影響で人と  
の接触を避ける必要があるため、積極的に行動することが  
困難ですが、それでも柳氏は「私は今起きている情報がほ  
しい。見えるものを全て見て学びます。」と真剣な表情で話  
されます。

### ●雇用する側、される側、双方に大切なこと

Sign with Meでは「手話者」であるスタッフが働いてい  
ます。雇用する側は、当事者が話しやすい環境を作り、対  
話を重ねていくことが必要です。一方、一緒に働くスタッフに  
は主体的に取り組む姿勢を持ち、自分事として考え行動し、  
ひとりひとりが経営者になってほしいと話されます。

「自身の強みに気づき、力を発揮できる環境のなかで、選  
択肢を自分で作る自由があることを忘れず、大空に羽ばた  
いてほしい。」と話し、優しい笑顔をみせてくれました。



●写真上:「いらっしゃいませ」の手話で迎えてくれる綿引さん

### ●誰もが「ありがとう」をもらえる社会を目指して

今回、柳氏には当事者として福祉制度や障害者雇用の在り  
かた等を熱く語っていただきました。柳氏はろう児がろう者や  
手話者クルーと共に安心して生活・勉強する居場所の「あ～  
とん塾」の運営もされており、「ろう」として生きる誇りを持って  
生活上の課題を自ら解決していける力を持つ子どもたちを  
育てる取り組みも行っています。このような活動が多様な在り  
方を相互に認め合い、障害のある方が積極的に参加・貢献  
していくことができる共生社会の実現に一翼を担うのだと感  
じました。

最後に柳氏はこのように話をされていました。「〈ありがとう〉  
という言葉は社会と繋がる言葉です。〈ありがとう〉の反対は  
〈当たり前〉という言葉だと考えています。我々がやっているこ  
とが当たり前になり、誰もが〈ありがとう〉をもらえる社会を  
目指していきたいです。」

<インタビュー・構成:多田 理恵子、秋元 全和>



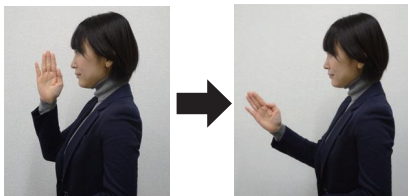
東京都文京区本郷4丁目15-14 区民センター1F  
TEL. 03-5615-8764 <http://signwithme.in/>  
日本手話と書記日本語(筆談)を公用語とし、手話空間を楽しむ場を提  
供する新たなカフェです。

## ミニ手話講座

### ～ Sign with Me で使ってみよう ～

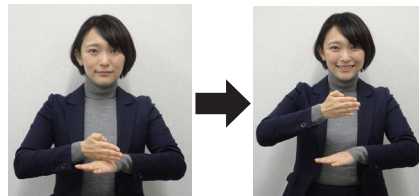
#### 〈 お願いします 〉

垂直に立てた右手を顔の前に出します。



#### 〈 ありがとう 〉

左手の甲の上に右手を垂直にのせ、  
右手だけを上げます。



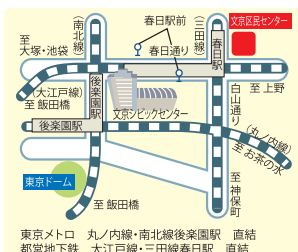
#### 〈 おいしい 〉

右手で顎下を撫でます。



気持ちを込めて、表情豊かに! きっと店員さんも手話で返してくれます。

※手話表現の一例です。



### 就労支援のお問い合わせ

TEL 03-5805-1600 FAX 03-5805-1601 E-mail: [daihyo@bunkyo-shuroushien.jp](mailto:daihyo@bunkyo-shuroushien.jp)

文京区民センター1階 文京区障害者就労支援センター  
〒113-0033 文京区本郷4-15-14

文京区障害者就労支援センター通信「しごとサポート」第26号(令和3年12月1日発行)

発行■文京区障害者就労支援センター 毎回、障害のある人の「働く」を発信していきます。次号もご期待ください。

【職業ガイダンス日程】 令和4年 1月5日(水)・19日(水)  
2月2日(水)・16日(水)